

山の日情報

(第 7 号)

平成28年8月29日

秋田県生活環境部
自然保護課

【事務局からのお知らせ】

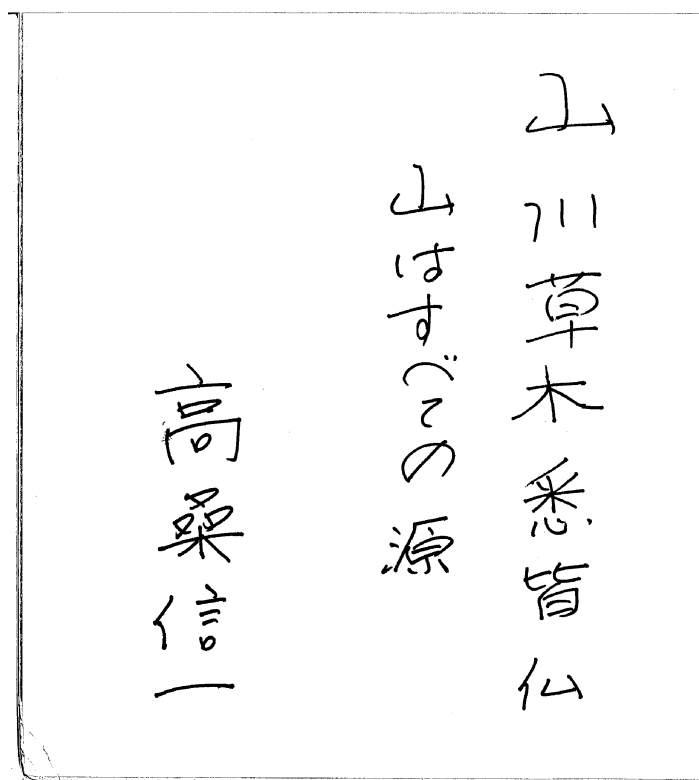
・『目下の私の願いは、「山の日」の創設なのである。』

2013年に発行された高桑信一さんの著書『山小屋からの贈りもの』（つり人社）に書かれている一節です。

高桑信一氏。秋田県出身のフリーライター、カメラマン、溪流ガイドとしてご活躍されており、‘日本の沢登りの先駆者’とも言われている方です。

高桑さんに、秋田県が実施している「山の日」制定記念事業のことを伝えたい、そして、なにかメッセージをいただけないだろうか、と、8月25日に新潟、山形、福島3県にまたがる飯豊連峰の門内小屋に行ってきました。

なぜ門内小屋なのかは、『山小屋からの贈りもの』を読んでもらいたいと思いますが、高桑さんは私の大変不躰なお願いに快く応じてくださり、次のようなメッセージを書いてくれました。



高桑さんとお話できたこと、門内小屋から一緒に見た日本海に沈む残照と佐渡島は、一生の思い出となりました。

また、門内岳から見えた新発田市の夜景、ギルダ原の花々、地神山に咲いていた飯豊リンドウ(だと思ふ。)など、飯豊の山は本当に山深く、山と一体になれた気がした山行でした。

～高桑信一さんの紹介～

1949年、秋田県男鹿市生まれ。夏は沢登りや源流釣り、冬はテレマークスキーや雪稜を好む。

日本古来からの登山スタイルである沢登りを確立し、‘山頂を目指さない登山家’として「情熱大陸」(2003年)に出演。

著書に「山の仕事、山の暮らし」(つり人社)、「古道巡礼」(東京新聞出版局)、「溪をわたる風」(平凡社)、「源流テンカラ」(山と溪谷社)など多数。埼玉県幸手市在住。



(管理棟前の高桑さん。
小屋番を始めて5年になるという)



(テント場から見上げた門内小屋)



(雲間からの御来光を待つ)



(固有種のイイデリンドウ
だと思う?)